

マスタープランとロードマップの連携について

マスタープランとロードマップの連携強化を図る観点から、科学技術・学術審議会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会において、前回のロードマップの審査プロセスにおいて把握された諸課題について、検討を開始したところ。現時点での同部会での主な論点は下記の通り。

(1) 日本学術会議と文部科学省（学術研究の大型プロジェクト作業部会）の緊密な連携体制の確立

- ・ 日本学術会議との意見交換の機会を設けるなど、連携体制を強化すべきではないか。
- ・ 日本学術会議と文部科学省が連携して、マスタープラン・ロードマップを、英文版の策定を含め、様々な形で今以上に社会・国民に周知してはどうか。

(2) 審査の実施方法の改善

- ・ マスタープラン 2014 の策定では、分野別の審査により、研究者コミュニティに対して分野や組織の連携や相互作用を促す力が弱くなったことから、大型計画の長期的な在り方を踏まえ、再検討すべきではないか。また、審査項目等においても学術会議のマスタープランとロードマップの役割分担を明確にしてはどうか。
- ・ 分野の特性に応じ、大型施設計画及び大規模研究計画の定義をより具体的に整理することが適切ではないか。
- ・ 審査においては、実施主体の明確化、コミュニティの同意、計画の具体性等を重視すべきではないか。
- ・ 政府の予算編成時期を見据えた策定スケジュールとすべきではないか。

(3) ロードマップの検討状況の学術会議への積極的な情報提供

- ・ 今後作業部会で検討を予定している、ロードマップの位置づけや活用に係る検討状況について、適宜情報提供していきたい。
- ・ ロードマップと密接に関係する学術研究の大型プロジェクト改革の動向についても、適宜情報提供していきたい。

【ご参考】

今後、学術研究の大型プロジェクト作業部会において検討を予定している事項

- ・ ロードマップにおいて取り上げる計画の定義・リストアップ基準の明確化
- ・ ロードマップの策定サイクルの再検討
- ・ 学術の大型プロジェクトの改革についての検討